

校長	教頭	事務長	保健主事	養護教諭

年 月 日

学校長 様

学校薬剤師 _____ 印

学校環境衛生検査報告書

- 検査項目: 1) プール水質
2) プール本体及び付属施設の管理状況・衛生状態
3) 日常の管理状況

日 時: 令和 年 月 日 ()

場 所: プール本体及びその周辺・腰洗い槽・シャワー・洗眼洗面場・専用トイレ
専用の薬品保管庫・プールの循環ろ過器等の浄化設備

目 的: プール水を適正に管理する。

検査方法: 1) プール水質
水素イオン濃度(PH): ガラス電極法
濁度: 積分球式光電光度法
遊離残留塩素: 比色法(DPD法)
有機物等: 滴定法(過マンガン酸カリウム消費量)
総トリハロメタン: ガスクロマトグラフ法
大腸菌: 特定酵素基質培地法
一般細菌: 混釈法(標準寒天培地)

- 2) プール本体及び付属施設の管理状況・衛生状態について調べる。
3) 日常の管理状況について調べる。

検査結果: 別紙のとおり(2枚)

指導助言事項:

- 1) プール水質について
2) プール本体及び付属施設の管理状況・衛生状態について
3) 日常の管理状況について

水泳プールの管理検査票

学校名

校長名

印

定期検査 実施者

学校薬剤師 氏名

印

実施年月日

令和

年

月

日

採水時刻

天候

気温

℃

水温

℃

記入方法：適又は不適の判定以外の項目は数値及び種類を記入すること

検査事項			判定	判定基準
プール本体の 衛生状態	プール・プールサイド及び通路		適・不適	清潔でプール水を汚染する原因がない
	排水口及び循環水の取り入れ口		適・不適	安全性に問題がないか
付属施設・ 設備の 管理状況・ 衛生状態	足洗い場		適・不適・不使用・無	入泳人員に対し十分な能力を有し、 故障等がなく衛生的であること
	シャワー		適・不適・不使用	
	腰洗い槽		適・不適・不使用・無	
	洗眼・洗面場		適・不適・不使用・無	
	専用便所		適・不適・不使用・無	
	薬品保管場所		機械室・倉庫・その他（ ）	
浄化設備 及びその 管理状況 【循環浄化式】	ろ過装置の容量 (m ³ /h)			(ろ過装置の容量 (m ³ /h) × 1日のろ過装置 の運転時間) ÷ プールの容量 連続運転4ターン以上で適
	1日の運転時間 (h)			
	ろ過の状態		適・不適 ()ターン	
	循環ろ過装置出口の濁度 (度)		適・不適 度	
				0.5度以下
【浄化設備なし】	全換水の間隔		適・不適	1週間に1回以上
	換水時の清掃状況		適・不適	
消毒設備及び その管理状況	消毒薬の種類 (成分名)	プール		次亜塩素酸ナトリウム液 (アルカリ) 次亜塩素酸カルシウム (アルカリ) トリクロロイソシアヌル酸 (酸性) ジクロロイソシアヌル酸 (中性)
		腰洗い槽		
	注入散布方法	プール	塩素自動注入法/手捲法	
		腰洗い槽	塩素自動注入法/手捲法	
	一日の平均使用量 kg	プール		
腰洗い槽				
救命具	浮輪等の救命具がプールサイドに備えてあるか		有・無	
	救急箱など常備されているか		有・無	

水泳プール水質検査票

学校名

校長名

印

定期検査 実施者

学校薬剤師 氏名

印

実施年月日

令和

年

月

日

採水時刻

天候

気温

℃

水温

℃

記入方法：適又は不適の判定以外の項目は数値及び種類を記入すること

検査事項			判定	判定基準
水質	原水の種類		上水道	飲料水の基準に適合するものであることが望ましい
	飲料水検査		適・不適	
	飲料水検査年月日			
	水素イオン濃度			5.8以上8.6以下
	濁度			2度以下
	有機物(過マンガン酸カリウム消費量)			12mg/l以下
	遊離残留塩素(対角線上3点の水面下20cm付近)			すべての点で0.4mg/l以上 また、1.0mg/l以下であることが望ましい
	サイド	中央	サイド	
	大腸菌			検出されてはならない
	一般細菌数			1ml中 200コロニー以下
総トリハロメタン			0.2mg/l以下	
日常点検	プール日誌等の有無及び記載状況		あり・なし 良好・不良	
	残留塩素判定方法* 及び測定状況	プール 腰洗い槽	適・不適	適切な管理が行われているか
	水素イオン濃度		行っている・いない	比色法(BT日試薬)
	透明度		行っている・いない	水中2・3m離れた位置からプール壁面が明確に見えるかどうか
	入場者管理		行っている・いない	
	付属設備の状況		行っている・いない	排水口及び循環水の取り入れ口の安全確認等が行われているかどうか

*DPD法、その他

検査結果